

朝刊 2025/06/25(水)

第3種郵便物認可

沖縄タイムス

小学ハンド界 南大東島旋風

沖プラ杯 初出場で準優勝

児童生徒110人の南大東小中学校の小学生でつくるハンドボールの南大東が、結成2年で旋風を巻き起こした。第16回沖縄プラント工業杯争奪第43回県小学生大会兼第38回全国小学生大会県予選に、初出場で決勝に進出。21日の男子決勝では強豪の当山に男女混合で立ち向かい、1点差で惜敗と大健闘した。準優勝に自信を深めた島の選手たちは「競技を続ける」「プロを目指す」など、新たな夢に胸を膨らませている。

(又吉健次)

結成2年 男女32人

チームは2023年9月に結成された。それまで学校にクラブ活動は吹奏楽しかなく、子どもたちは放課後、時間を持て余していたという。仲間一史校長（現同村教委）が「子どもの居場所をつくろう」と考え、同校体育教諭で琉球コラソンの元選手だった名嘉伸明さん（現神森中教諭）にハンドの指導を依頼した。

仲間さんが「小学生は投げる、跳ぶ、走るが好き」と語るように、瞬間に希望者が集まった。今は児童71人中、32人の男女が部員だ。練習は週3日、1対1の攻防を中心に学び、力をつけてきた。

同大会初出場の南大東は予選リーグを3戦全勝し、グループ1位で決勝トーナメントに進出。準々決勝は沢岬に21-20、準決勝はコラソンU12に15-14とそれぞれ1点差で勝利し、決勝の舞台に駆け

上がった。

決勝は当山の高い技術に苦しみながらも、相手守備の間を割ってゴールするなど食らい続けた。

3点差の残り1分、大城愛翔（6年）と幸喜秋介（同）が連続ゴールを決めたが、そこで終了のホイッスル。17-18の接戦に、客席からは南大東の健闘をたたえる拍手が湧き起こった。

3得点した小濱桜亜里（同）は「自信をなくしたこともあったが、ハンドを続けていて良かった。1点差の負けは悔しいけど準優勝はいい結果」と喜ぶ。「いい成績を残せたのでハンドを続けたい。将来はプロになりたい」と自信をつけた様子だった。

主将の山内煌（同）は「初出場の大会で決勝まで来て1点差の敗退。次の大会では優勝したい」と闘志を燃やしている。

児童に自信「プロ目指す」



当山との決勝後半、9点目のシュートを決める南大東の小濱桜亜里（21日、県総合運動公園体育館（小宮健撮影））



男子準優勝を果たした南大東